

平成26年度 第1回栃木県公共事業評価委員会

日時：平成26年8月4日(月)14:00～

場所：栃木県庁本館6階 大会議室1

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 栃木県が実施する公共事業の評価について . . .【資料1】

《議 題》

4 栃木県県土整備部所管事業の再評価について
(審議案件) . . .【資料2】

(1) 道路事業

ア 一般国道294号 小川湯津上バイパス (県事業) . . .【資料3-1】

イ 一般国道408号 真岡宇都宮バイパス (県事業) . . .【資料3-2】

ウ 主要地方道 宇都宮亀和田栃木線 (県事業) . . .【資料3-3】

(2) 住宅市街地基盤整備事業

ア 主要地方道宇都宮鹿沼線・一級河川姿川 (県事業) . . .【資料4-1】
(藤和フレッシュタウン七久保)

5 閉 会

平成26年度

栃木県公共事業評価委員会 委員名簿

- | | | | |
|---|------------|------------|------------------|
| 1 | いけだ
池田 | ひろかず
裕一 | 宇都宮大学工学部教授 |
| 2 | おくもと
奥本 | まさゆき
雅之 | 栃木県経済同友会理事 |
| 3 | かとう
加藤 | さちこ
幸子 | 栃木県女性団体連絡協議会事務局長 |
| 4 | たさか
田坂 | としあき
聡明 | 宇都宮大学農学部教授 |
| 5 | たむら
田村 | たかひろ
孝浩 | 宇都宮大学農学部准教授 |
| 6 | ねもと
根本 | ともこ
智子 | 弁護士（栃木県弁護士会） |
| 7 | やなせ
築瀬 | のりひこ
範彦 | 足利工業大学工学部教授 |

（敬称略 五十音順）

栃木県が実施する公共事業の評価システムについて

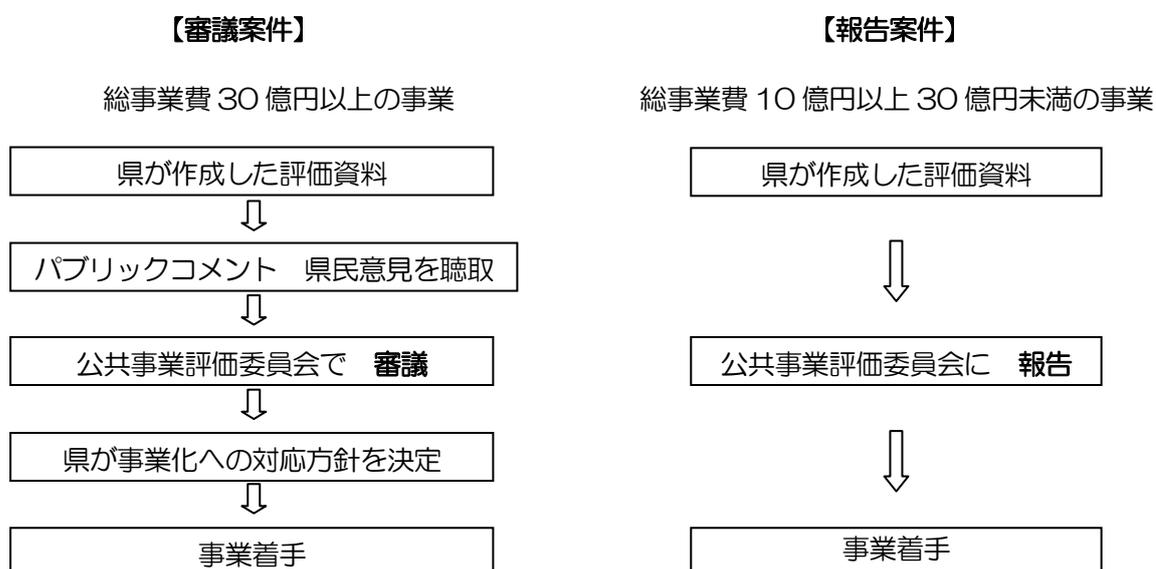
1. 概要

栃木県（環境森林部・農政部・県土整備部）が実施する公共事業の効率化、重点化を図るとともに、県民に対し実施プロセスの透明性を高めていくため、事業着手前、事業着手後長期経過時、事業完了後の各時点において評価を行うシステムである。評価に当たっては、公共事業評価委員会（外部委員会）において審議（報告）するとともに、結果については県ホームページ等を通じて県民に公表する。

2. 事前評価システム（H14. 4. 1～）

県民生活に与える影響が特に大きい公共事業の計画段階において、県民の幅広い意見を聴取しながら、公共事業評価委員会の審議（報告）を経て、事業推進の必要性や妥当性をあらかじめ評価する。

対象事業：県が実施する公共事業のうち、内部評価を実施した総事業費 10 億円以上の事業



3. 再評価システム（H10. 12. 1～）

事業採択後一定期間を経過して未着手や継続中の事業等について、公共事業評価委員会の審議を経て、事業の継続、見直し、中止など事業執行に反映する。

対象事業：県が実施する総事業費 10 億円以上の事業（H26.3 月要領改定：10 億円以上とした）

- ①事業採択後、一定期間が経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後、長期間が経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後、一定期間が経過している事業

4. 事後評価システム（H20. 4. 1～）

完了した事業について、その事業実施の効果等について確認を行い、公共事業評価委員会の報告を経て、必要に応じて、適切な改善措置の検討や今後実施する同種事業の計画等に反映する。

対象事業：県が実施した公共事業のうち、総事業費 10 億円以上の事業

平成 26 年度 栃木県公共事業評価委員会の年間予定

第 1 回 栃木県公共事業評価委員会（県土整備部関係）

日 時： 8 月 4 日（月） 14：00～17：00（予定） 場所：栃木県庁 本館 6 階 大会議室 1

【再評価】

道 路：(国)294 号 小川湯津上バイパス (県)

道 路：(国)408 号 真岡宇都宮バイパス (県)

道 路：(主)宇都宮亀和田栃木線 (県)

住宅市街地盤整備：(主)宇都宮鹿沼線・一級河川姿川 藤和フレッシュタウン七久保 (県)

以上 審議案件 4 件

第 2 回 栃木県公共事業評価委員会（県土整備部関係）

日 時： 9 月 8 日（月） 14：00～17：00（予定） 場所：栃木県庁 本館 6 階 大会議室 2

【再評価】

河 川：一級河川姿川 宇都宮市城山 (県)

街 路：宇都宮都市計画道路 3・3・1 号 鹿沼宇都宮線 (県)

街 路：宇都宮都市計画道路 3・4・202 号 古峯原宮通り外 1 路線 (県)

以上 審議案件 3 件

第 3 回 栃木県公共事業評価委員会（農政部・県土整備部関係）

日 時： 10 月 20 日（月） 14：00～17：00（予定） 場所：栃木県庁 本館 6 階 大会議室 1

【事後評価】

道 路：(一)佐野田沼インター線 田沼 I C (県)

街 路：小山栃木都市計画道路 3・4・105 号 間々田北通り (県)

街 路：小山栃木都市計画道路 3・4・103 号 小山南通り (県)

街 路：宇都宮都市計画道路 3・4・905 号 安塚駅西線 (県)

農村整備：農業集落排水事業 上三川東部 上三川町 (町)

農村整備：農業集落排水事業 菊沢西 鹿沼市 (市)

農村整備：農業集落排水事業 二宮東部 真岡市 (市)

草地開発整備：畜産基盤再編総合整備事業 栃木黒磯 那須塩原市 (農業振興公社)

圃場整備：圃場整備事業 徳次郎 宇都宮市 (県)

以上 報告案件 9 件

第 4 回 栃木県公共事業評価委員会（農政部・県土整備部関係）

日 付： 11 月 10 日（月） 13：30～16：30（予定） 場所：栃木県庁 本館 6 階 大会議室 1

現地調査： 9：00～12：00（予定） 一級河川姿川、3・4・202 号古峯原宮通り外 1 路線（予定）

【事前評価】

河 川：一級河川武子川 鹿沼市白桑田 (県)

河 川：一級河川秋山川 佐野市大橋町 (県)

以上 審議案件 2 件

街 路：宇都宮都市計画道路 3・2・101 号 大通り (県)

農村整備：中山間地域総合整備事業 馬頭中部 那珂川町 (県)

圃場整備：圃場整備事業 塚崎・東野田 小山市 (県)

以上 報告案件 3 件

【再評価】

道 路：(国)119 号 日光宇都宮道路 (道路公社)

以上 審議案件 1 件

予備日 日時： 1 月 19 日（月） 14：00～17：00（予定） 場所：栃木県庁 本館 6 階 大会議室 2

費用便益分析の算出方法

①_道路・街路事業

$$\text{費用便益比(B/C)} = \frac{\text{総便益(B)}}{\text{総費用(C)}}$$

$$\text{総便益(B)} = \text{B1} + \text{B2} + \text{B3}$$

	便 益 項 目	内 容
B1	走行時間短縮便益	道路の整備・改良によって、目的地までの走行時間が短縮したことで得られる便益。
B2	走行経費減少便益	道路の整備・改良によって、走行条件が改善され車両が要する走行経費(燃料費、タイヤ費、車両整備費等)が減少したことで得られる便益。
B3	交通事故減少便益	道路の整備・改良によって、交通事故による社会的損失(人的損害額、物的損害額、事故渋滞による損失額)が減少したことで得られる便益。

※ 当該事業の供用開始年から50年間の便益

$$\text{総費用(C)} = \text{C1} + \text{C2}$$

	費 用 項 目	内 容
C1	事 業 費	道路整備に要する事業費(工事費、用地費、補償費など)。
C2	維持管理費	道路供用開始から50年間の維持管理に要する費用。 <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁、トンネル等の道路構造物の点検、補修に要する費用 ・巡回、清掃等に要する費用 ・除雪等に要する費用

費用便益分析の算出方法

② 河川事業

$$\text{費用便益比(B/C)} = \frac{\text{総便益(B)}}{\text{総費用(C)}}$$

$$\text{総便益(B)} = \text{B1} + \text{B2}$$

	便 益 項 目	内 容
B1	被害防止便益	堤防整備等の治水事業によって、洪水氾濫被害等の防止効果により得られる便益。(年平均被害軽減期待額により算出) <ul style="list-style-type: none"> ・家屋、家庭用品等の一般資産被害抑止効果 ・農産物等の資産被害抑止効果 ・公共土木施設等の資産被害抑止効果 ・事業所等の営業停止による稼働被害抑止効果 ・浸水後の清掃等による応急対策による事後的被害抑止効果
B2	残存価値	評価対象期間終了時点(施設完成後50年)における施設の残存価値

※ 当該事業の整備期間+施設完成後50年間の便益

$$\text{総費用(C)} = \text{C1} + \text{C2}$$

	費 用 項 目	内 容
C1	事業費	堤防整備等に要する事業費(工事費、用地費、補償費など)。
C2	維持管理費	堤防等の治水施設完成後から50年間の維持管理に要する費用。 <ul style="list-style-type: none"> ・堤防等の除草等に要する維持管理費 ・ポンプ等の運転経費 ・定期的に支出される設備交換に要する費用

再評価を実施する栃木県県土整備部所管事業の一覧表(審議案件)

No	事業区分	事業主体	路河川名等	箇所名	総事業費(億円)	事業予定期間	再評価分類 注1)
1	道路	栃木県	一般国道 294号	那珂川町・大田原市 小川湯津上バイパス	30	H12~H28	工
2	道路	栃木県	一般国道 408号	真岡市・宇都宮市 真岡宇都宮バイパス	170	H15~H32	オ
3	道路	栃木県	主要地方道 宇都宮亀和田栃木線	栃木市 合戦場	48	H12~H31	工
4	住宅市街地 基盤整備	栃木県	道路:主要地方道 宇都宮鹿沼線 河川:一級河川 姿川	道路:宇都宮市 荒針工区 河川:宇都宮市 上欠工区	道路:48 河川:21	道路:H12~H26 河川:H11~H14	オ

注1) 再評価分類 ア=事業採択後一定期間を経過した時点で未着工の事業 イ=事業採択後長期間が経過した時点で継続中の事業
ウ=準備・計画段階で一定期間が経過している事業 エ=再評価実施後一定期間が経過している事業
オ=社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業
※詳細については、栃木県公共事業評価実施要領 第5-1を参照。

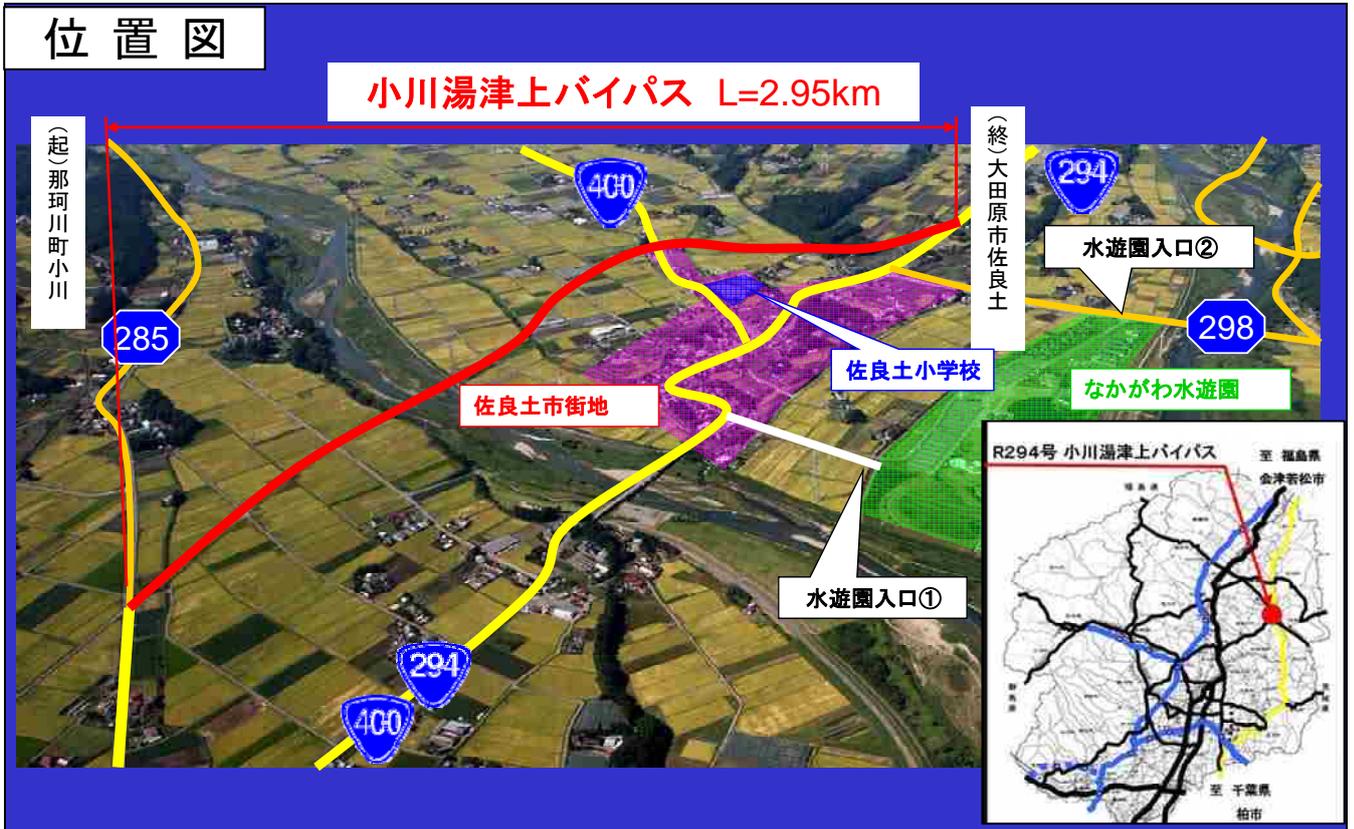
道路事業の再評価概要書

() は、前回(H21)再評価時

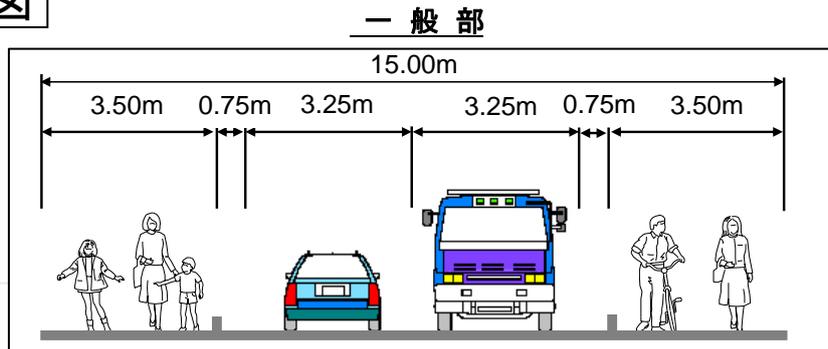
道路事業の再評価概要書			番号	1
			事業主体	栃木県
事業名	快適で安全な道づくり事業		事業所管課	県土整備部 道路整備課
路線・河川名	一般国道 294号		事業箇所名	なかがわ おおたわら 那珂川町・大田原市 おがわゆづかみ 小川湯津上バイパス
事業区間	なかがわまちおがわ おおたわらしきらど 那珂川町小川 ~ 大田原市佐良土		事業延長	2,950m
H12年度事業化			H13年度用地着手	H19年度工事着手
事業期間	(H25) H12年度~H28年度	事業 進捗 状況	基準年次：【平成26年度末時点】	
[うち用地補償費] 全体事業費	[4.7(4.5)億円] 30.3(22.9)億円		[うち用地補償費] 既投資事業費	[4.7億円] [100%] 21.8億円 72%
事業概要				
<p>一般国道294号は、千葉県柏市を起点に福島県白河市を經由して会津若松市に至る延長約264kmの幹線道路である。また、本路線は本県東部を縦断し、八溝地域をはじめとする沿線地域の観光産業や経済、生活を支える重要な路線であり、第2次緊急輸送道路に指定されている。</p> <p>しかし、なかがわまちおがわ おおたわらしきらど 那珂川町小川から大田原市佐良土までの区間は、人家が連担し、幅員が狭小で、道路線形が屈曲していることから、大型車交通の支障となっており、交通の円滑化と安全性の向上が求められている。</p> <p>また、朝の通勤時間帯や、観光シーズン時には、特に箒橋北の屈曲部を中心に渋滞が発生し、県東部の広域幹線としての機能が確保されてない状況にある。</p> <p>このため、現在進められている一級河川 箒川の新箒橋とともに、当該区間の安全で円滑な通行を確保し、沿線地域の観光・経済の活性化を図るため、バイパス整備を行うものである。</p>				
事業を巡る社会経済情勢等の変化				
<ul style="list-style-type: none"> 平成23年の大震災や平成26年2月の大雪時には、東北縦貫道や国道4号が通行止めや大渋滞に見舞われ、福島とを結ぶ幹線道路の重要性が浮き彫りとなった。 				
事業の投資効果				
1 費用対効果分析結果		【総便益(B)】	【総費用(C)】	
(1)事業全体 B/C = 1.8		64.0億円	35.0億円	
(2)残事業 B/C = 5.3		53.0億円	10.0億円	
2 事業の整備効果等				
<ul style="list-style-type: none"> 大型車交通の支障となる線形不良区間を迂回することによる走行性および安全性の向上 新橋架設による、緊急輸送道路の機能強化 朝の通勤時間帯や観光シーズン時の渋滞時における通過交通の円滑化 				
3 その他				
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に一部約1.0kmのバイパス区間を先行供用し、交通の分散が図られるとともに、佐良土小学校の新たな通学路として児童の安全が確保された。 				
事業の進捗状況等				
1 事業の進捗状況				
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度 用地取得完了。一部約1.0kmのバイパス区間の供用開始。 平成26年度末時点における工事の進捗率は約72%の予定。(事業費ベース) 				
2 今後の事業進捗の見込み				
<ul style="list-style-type: none"> 新箒橋や、取付部の盛土改良工事を推進しており、平成28年度内の完成供用を図る。 				
コスト縮減等				
1 コスト縮減方策				
<ul style="list-style-type: none"> 再生骨材、再生アスファルト合材を積極活用しコストを縮減 				
2 代替案立案等の可能性				
<ul style="list-style-type: none"> 用地取得が完了しており、大部分の工事に着手していることから、本計画が最適である。 				
事業の対応方針(案)		現計画で事業を継続する。		

事業箇所（位置図・概要図）

位置図



標準横断面図



概要図

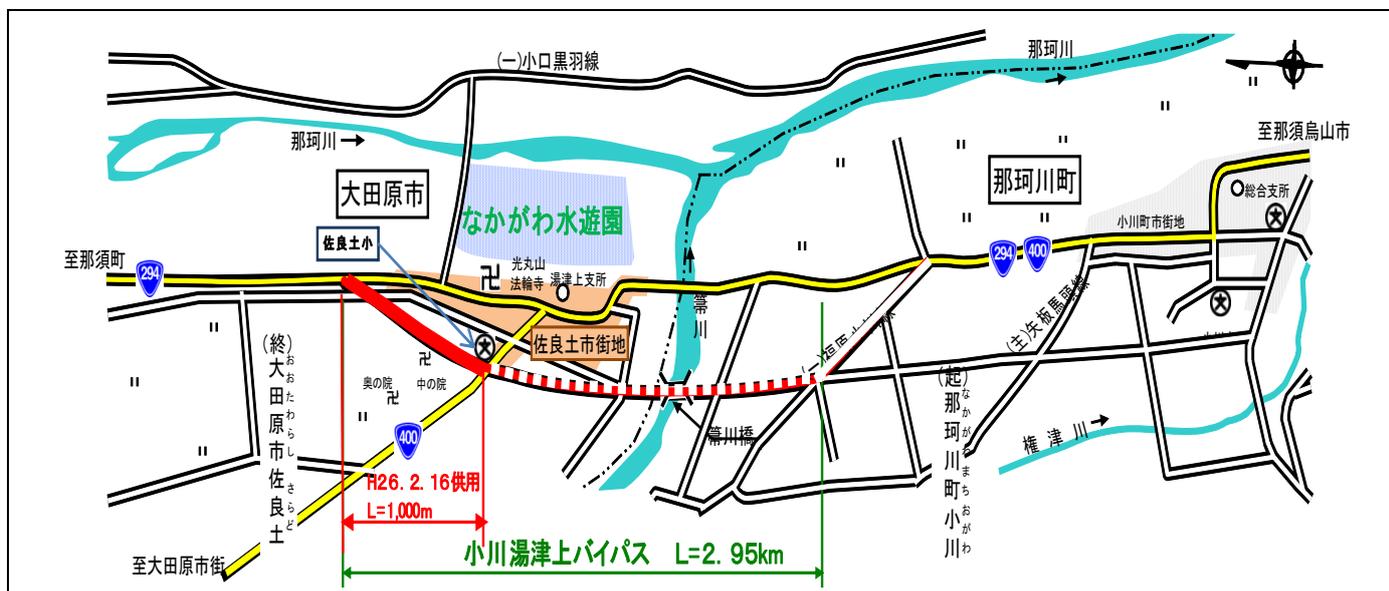




写真 1 : 箒橋北側渋滞状況



写真 2 : 佐良土交差点南側の道路線形屈曲状況



写真 3 : 歩道整備の状況 : 幅員 W=1.5m

道路事業の再評価概要書

() は、前回(H23)再評価時

道 路 事 業 の 再 評 価 概 要 書			番 号	2
			事業主体	栃 木 県
事業名	快適で安全な道づくり事業		事業所管課	県土整備部 道路整備課
路線・河川名	一般国道408号		事業箇所名	真岡市・宇都宮市 真岡宇都宮バイパス
事業区間	真岡市下籠谷～宇都宮市氷室町		事業延長	5,200 m
H12年度都市計画決定		H15年度事業化		H15年度用地着手
H16年度工事着手		基準年次：【平成26年度末時点】		
事業期間	(H25) H15年度～H32年度		事業進捗状況	進捗率
[うち用地補償費]	[60.0 (60.0) 億円]		[うち用地補償費]	[60.0 億円] [100%]
全体事業費	170.0 (154.0) 億円		既投資事業費	157.1 億円 92%
事業概要				
<p>一般国道408号真岡宇都宮バイパスは、「新とちぎ元気プラン」においてスカイコリドールに位置づけられており、宇都宮高根沢バイパス、真岡南バイパス等とともに常磐自動車道谷和原ICと東北自動車道矢板ICを結ぶ延長約100kmの地域高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」の一部を構成する広域幹線道路である。</p> <p>本道路は整備済みの真岡バイパス、真岡北バイパスと一体となって、北関東自動車道真岡インターチェンジや一般国道4号へのアクセス強化を図るとともに、清原工業団地を中心に工業団地を支援し、鬼怒川左岸地域における産業活動を支える道路である。</p> <p>平成15年度に全区間4車線の計画で事業に着手し、道路ネットワークの早期構築を図ることから、一部区間を暫定2車線で整備を進め、平成25年12月に供用を開始した。</p> <p>今後、さらなる交通の円滑化を図り、宇都宮高根沢バイパス及び真岡南バイパス等の完成供用後の交通需要の増加に対応するため、引き続き暫定2車線区間の4車線化整備を進めるものである。</p>				
事業を巡る社会経済情勢等の変化				
・一般国道408号宇都宮高根沢バイパス・真岡南バイパスの整備が進捗し、平成32年度の完了予定となる。				
事業の投資効果				
1 費用対効果分析結果		【総便益 (B)】	【総費用 (C)】	
(1) 事業全体 B/C= 4.7		906.6 億円	193.1 億円	
(2) 残事業 B/C= 23.9		352.5 億円	14.7 億円	
2 事業の整備効果等				
<ul style="list-style-type: none"> 交通渋滞緩和による交通の円滑化 北関東自動車道真岡ICや一般国道4号へのアクセス強化 鬼怒川左岸地域の産業振興 				
事業の進捗状況等				
1 事業の進捗状況				
<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度に全線の用地取得を完了した。 平成25年度に一部暫定2車線で全線の供用を開始した。 				
2 今後の事業進捗の見込み				
<p>今後は暫定2車線供用区間の4車線化工事を推進し、平成32年度に完成供用を図る。</p>				
コスト縮減等				
1 コスト縮減方策				
<ul style="list-style-type: none"> 再生骨材、再生アスファルト合材を積極活用しコストを縮減 				
2 代替案立案等の可能性				
<ul style="list-style-type: none"> 用地取得が完了しており、一部暫定2車線で全区間供用開始済みであることから、本計画が最適である。 				
事業の対応方針(案)		現計画で事業を継続する。		

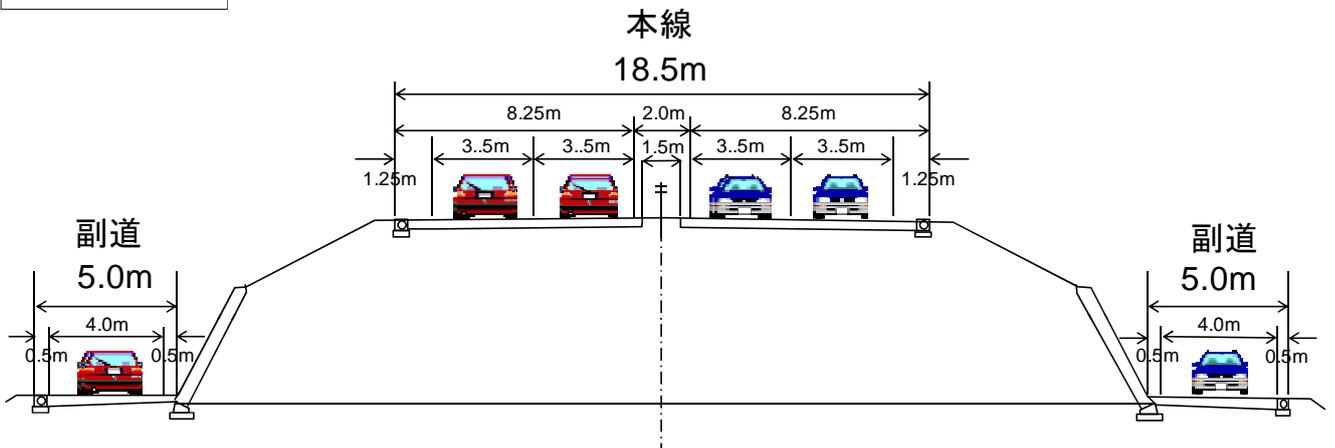
事業箇所(位置図・概要図)

位置図

一般国道408号
真岡宇都宮バイパス



標準横断面図



概要図



写真撮影位置



写真1: 完成供用区間の真岡宇都宮バイパス【国道121号交差部】



写真2: 暫定供用区間の真岡宇都宮バイパス【清南大地高架橋】



写真3: 暫定供用区間の真岡宇都宮バイパス【農業大学校付近】

道路事業の再評価概要書

()は、前回(H21)再評価時

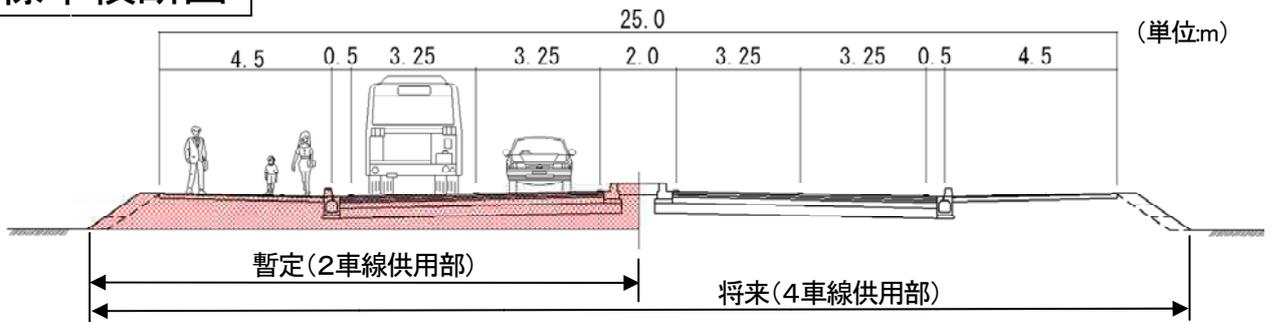
			番 号	3	
			事業主体	栃 木 県	
事業名	快適で安全な道づくり事業		事業所管課	県土整備部 道路整備課	
路線・河川名	主要地方道 <small>うつのみやかめわ だ とうちぎせん</small> 宇都宮亀和田栃木線		事業箇所名	<small>とうちぎし</small> 栃木市 <small>かっせんば</small> 合戦場	
事業区間	<small>とうちぎし</small> 栃木市 <small>つがまちいえなか</small> 都賀町家中 ～ <small>つがまちひらかわ</small> 都賀町平川		事業延長	3,200m	
H12年度都市計画決定(変更)		H12年度事業化		H12年度用地着手	
H16年度工事着手					
事業期間	(H24) H12年度～H31年度	事業 進 捗 状 況	基準年次：【平成26年度末時点】		
[うち用地補償費]	[34.0 (35.0)億円]		[うち用地補償費]	[33.0億円]	進捗率 [97%]
全体事業費	48.0 (45.0)億円		既投資事業費	44.7億円	93%
事業概要					
<p>主要地方道宇都宮亀和田栃木線は宇都宮市上戸祭町を起点とし栃木市万町に至る延長約31kmの幹線道路であり、本工区は「西部広域幹線（歴史ふれあいサブコリドール）」の一部を形成し、広域的な地域間交流や連携を強化するとともに、地域の産業や観光を支援する重要な道路である。</p> <p>しかし、計画区間の現道では慢性的な交通渋滞が発生しており（橋本北交差点では朝120m渋滞）、また人家や商店等の連たんする市街化地域であるにもかかわらず、歩道が無いもしくは幅員狭小で交通安全上非常に危険な状況にある。</p> <p>このため、広域的なネットワークを形成し、交通の円滑化および安全確保を図るため、栃木市都賀町の市街地東側にバイパス整備を行うものである。</p>					
事業を巡る社会経済情勢等の変化					
<ul style="list-style-type: none"> 平成23年3月に北関東自動車道路が全線開通し、都賀ICに直接接続する本線の重要性がさらに高まった。 					
事業の投資効果					
1 費用対効果分析結果		【総便益 (B)】		【総費用 (C)】	
(1) 事業全体	B/C = 1.0	70.3億円		67.8億円	
(2) 残事業	B/C = 5.0	13.1億円		2.6億円	
2 事業の整備効果等					
<ul style="list-style-type: none"> 現道の渋滞緩和による自動車交通の円滑化や自転車及び歩行者の安全性確保 栃木県西部広域幹線道路の形成による沿線都市の地域間連携や物流機能の強化、日常生活の利便性向上 					
3 その他					
<ul style="list-style-type: none"> 平成20年3月の第1期工区供用、平成25年3月の第2期工区1.0km区間の暫定供用により、合戦場小学校や家中小学校の通学路として利用されるとともに、沿道の工業団地へのアクセラートとして利用され、現道の渋滞緩和にも寄与している。 					
事業の進捗状況等					
1 事業の進捗状況					
<ul style="list-style-type: none"> 1期工区(1.7km)は、平成19年度に暫定2車線で供用済み。 2期工区(1.5km)は、平成24年度に小山都賀線BPまでの1.0kmを暫定2車線で供用済み。現在、残り0.5kmの用地について地権者と交渉中。 					
2 今後の事業進捗の見込み					
<ul style="list-style-type: none"> 用地の取得及び工事を推進し、平成31年度までに暫定2車線で供用を図る。（全線供用） 					
コスト縮減等					
1 コスト縮減方策					
<ul style="list-style-type: none"> 再生骨材、再生アスファルト合材の利用や、建設発生土の流用を積極的に活用しコストを縮減 上下水道工事との同時施工による、掘り返し工事の削減 					
2 代替案立案等の可能性					
<ul style="list-style-type: none"> ルートについては都市計画決定されたものであり、大部分の用地を既に取得し、供用が図られていることから、本計画が最適である。 					
事業の対応方針(案)		現計画で事業を継続する。			

事業箇所 (位置図・概要図)

位置図



標準横断図



概要図

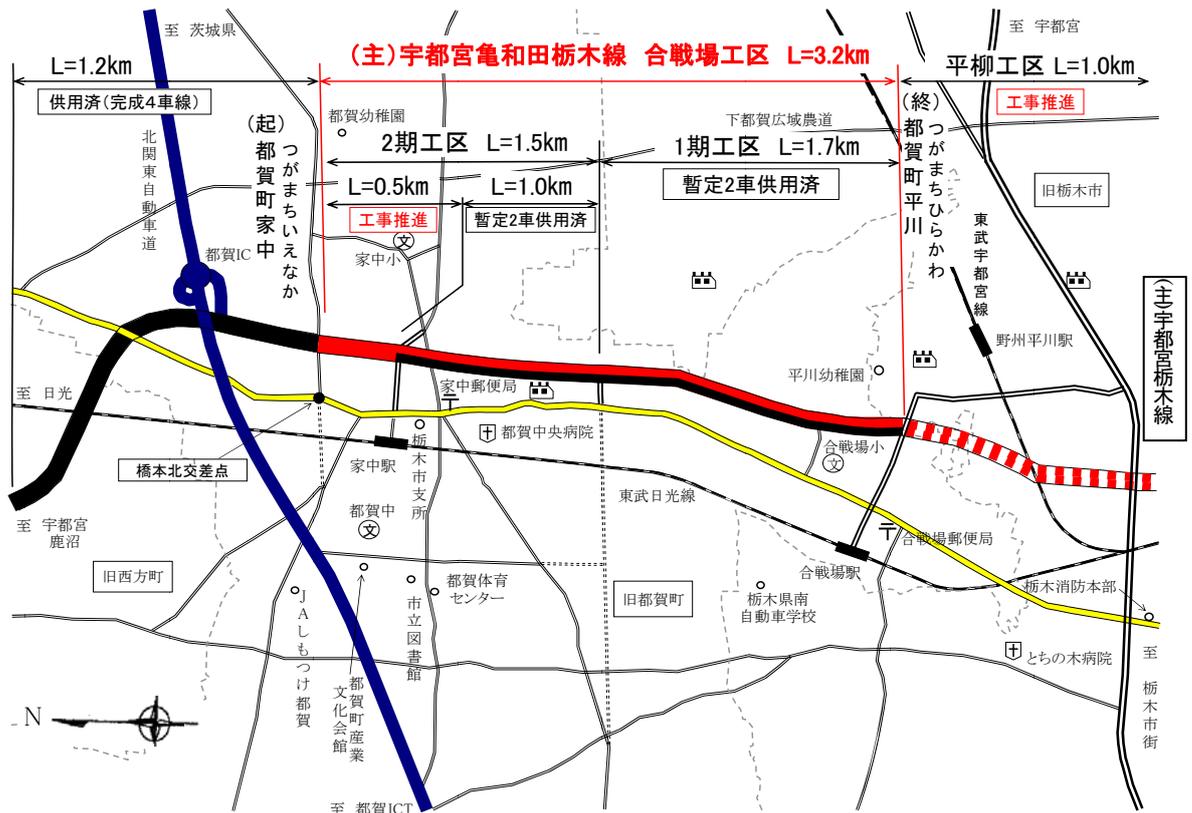




写真 1 : 橋本北交差点からの渋滞状況



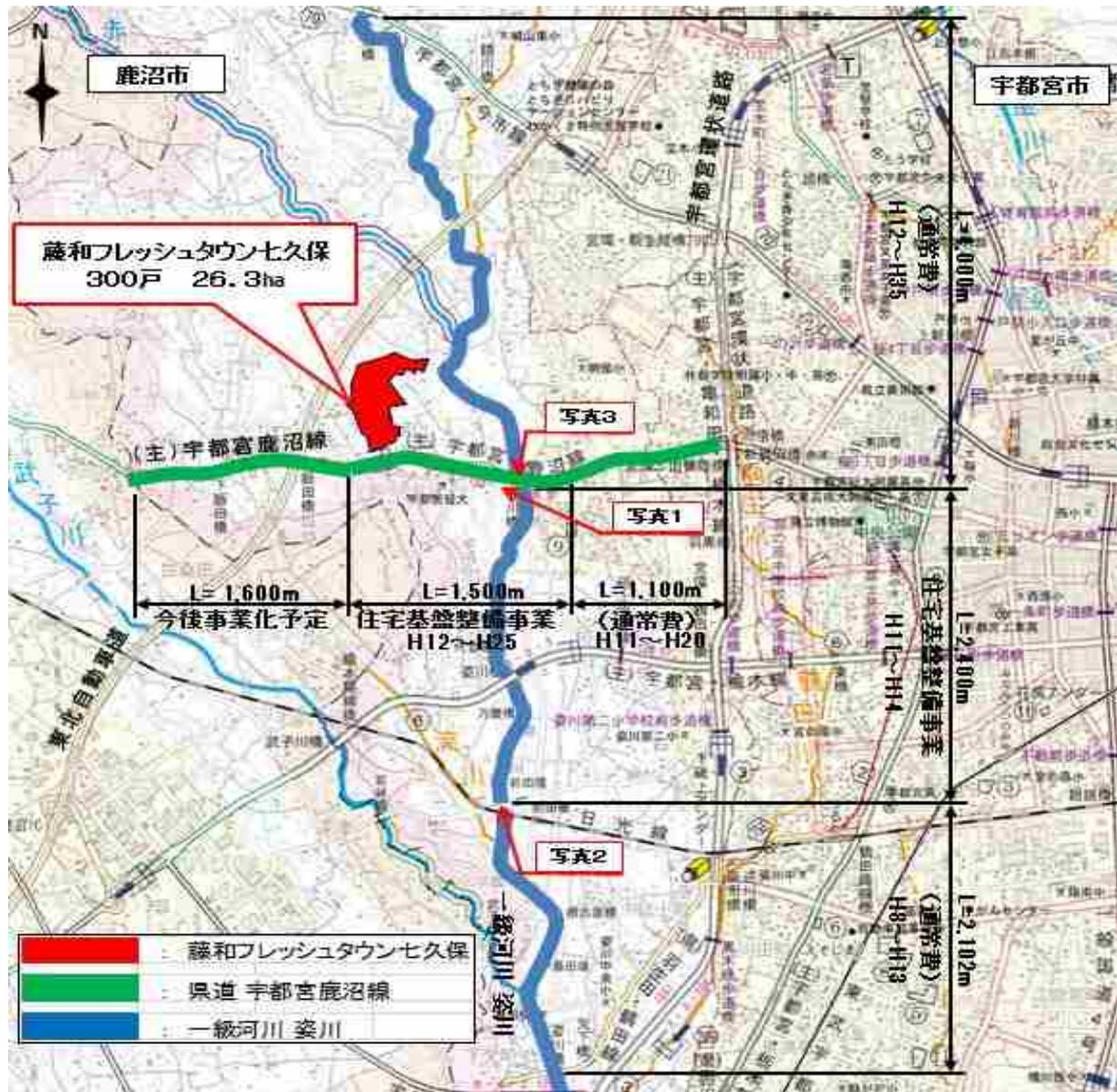
写真 2 : 暫定 2 車線供用状況 (1 期工区)



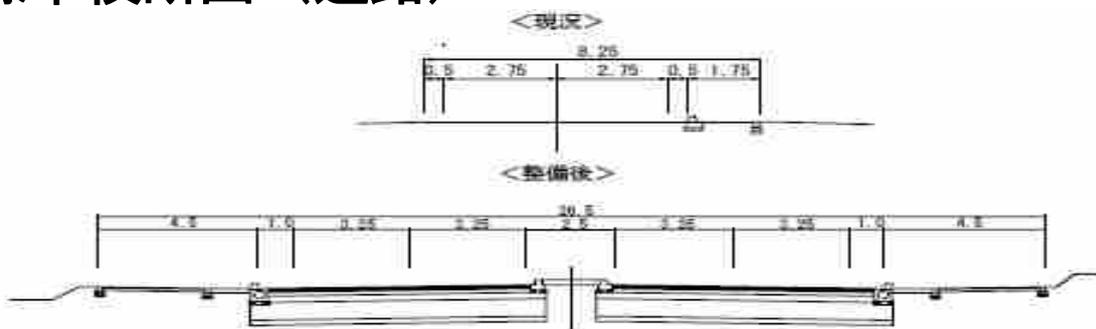
写真 3 : 暫定 2 車線供用状況 (2 期工区)

住宅市街地盤整備事業の再評価概要書			番 号	4
() は、当初計画時			事業主体	栃 木 県
事業名	住宅市街地盤整備事業	事業所管課	県土整備部 住宅課	
路線・河川名	道路：主要地方道 <small>うつのみやかぬません</small> 宇都宮鹿沼線 河川：一級河川 <small>すがたがわ</small> 姿川	事業箇所名	道路：宇都宮市 <small>あらかり</small> 荒針工区 河川：宇都宮市 <small>かみかけ</small> 上欠工区	
事業期間	(H26) 道路：H12年度～H25年度 河川：H11年度～H14年度	用地買収の着手	道路：H12年度 河川：H11年度	
事業進捗状況	道路事業【平成25年度末時点】 [うち用地補償費] [35.6億円] 既投資事業費 48.3億円 河川事業【平成14年度末時点】 [うち用地補償費] [15.0億円] 既投資事業費 21.3億円	進捗率	[100%] 93.6% 進捗率 [100%] 100%	
住宅市街地盤整備事業の基本方針				
住宅建設事業及び宅地開発事業の推進を目的として、関連する公共施設の整備（道路、河川等）を行う事業について、国が補助を行う制度（対象団地規模は300戸又は16ha以上）。				
対象団地：藤和フレッシュタウン七久保（計画戸数：300戸 計画面積：23.6ha）				
事業概要（関連する公共事業の整備）				
<p>当該地域は、JR東北本線「宇都宮駅」から約6.5km、東武鉄道宇都宮線「東武宇都宮駅」から約5.0kmの宇都宮市中心市街地から真西に位置し、近隣に教育施設が複数立地する等、新たな住宅地として良好な地域となっている。この地域に、三菱地所レジデンス株式会社（藤和不動産）が、約23haの住宅開発計画を策定、平成6年に約450区画の宅地造成を行う目的で開発許可を取得し事業の展開を進めてきた。</p> <p>県は、この宅地開発事業の推進を目的とし、主要地方道宇都宮鹿沼線の道路改築事業、一級河川姿川の河川改修事業について、通常事業に加え住宅市街地盤整備事業を導入し、事業の早期完了を目指した。</p> <p>1 道路事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成11年度より、宇都宮環状道路より通常事業にて4車線化の道路整備に着手したところであるが、砥上通り交差点より団地入り口までの1,500m区間に住宅市街地盤整備事業を導入し、団地分譲開始後に予想される更なる交通渋滞の緩和に取り組んだ。 <p>2 河川事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 宅地造成開発の雨水の放流先である姿川は、豪雨等による浸水被害が頻発している箇所であり改修が完了しないと当該団地の雨水受け入れも困難な状況であったため、全体計画のうち、(主)羽生田鶴田線上欠橋から通常事業にて河川改修に着手、さらに宇都宮市道楡木街道「前田橋」から(主)宇都宮鹿沼線「姿川橋」までのL=2,400mの区間に住宅市街地盤整備事業を導入し、早期完了を目指した。 				
事業を巡る社会経済情勢等の変化				
<p>開発事業者は、平成6年に約450区画の宅地造成を行う目的で開発許可を取得後、バブルの崩壊等による経済環境・社会状況の急変により事業の進捗が困難と判断し、本格的な工事は未着手の状態となっていた。</p> <p>そこで、平成19年には区画数を約300区画に減ずる計画で開発行為の変更許可を取得するなど、事業進捗、工事着手に向けた検討を鋭意進めてきた。しかし、計画地周辺の住宅市況が厳しさを増し、住宅開発計画では事業利益及び市場からの評価が期待できないことが明確な状況となったことから、平成25年度末に住宅開発計画を取りやめ、市街化調整区域においても建設可能なメガソーラー（大規模太陽光発電所）サイトの造成に土地利用の目的を変更することとした。</p> <p>上記計画変更に伴い、住宅市街地盤整備事業としての採択要件は満たさなくなった。</p>				
事業の対応方針（案）	<p>住宅市街地盤整備事業は、採択要件を満たさなくなったことから、同事業による整備は中止とする。</p> <p>しかし、道路や河川の公共施設は、住宅開発の有無に係わらず必要な社会資本であるため、道路については道路改築事業により継続整備し、平成26年度内の完成を目指す。</p>			

事業箇所（位置図・概要図）



標準横断図（道路）



標準横断図（河川）

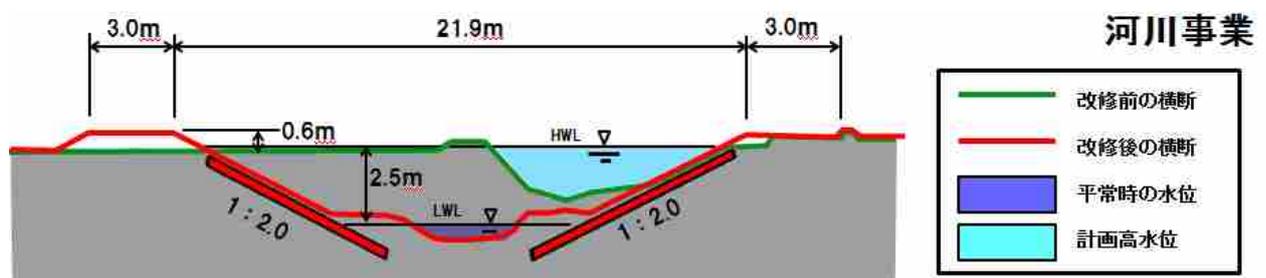


写真1 (道路事業)

宇都宮共和大学
長坂キャンパス



写真2 (河川事業)



写真3 (河川事業)

鷺谷病院

